

## 文化情報学部10年間の記録

(作製：青木栄一)

### 専任教員一覧

氏名	最終学歴・学位	前職	着任年月	着任時 職階	昇任年月	大学院 担当	役職	退職 年月
安澤 秀一	慶応義塾大学経済学部大学院(旧制)・経済学博士	明海大学経済学部教授、(本学文化情報学部常任準備委員)	93. 4	教授		99. 4	学部長(94～98), 大学院研究科長(99～00), 大学評議員(93.12～02.3)	02. 3
大木昭一郎	東京教育大学体育学部体育科	筑波大学体育科学系教授	94. 4	教授			学生部長(95～97), 学部長(98～99), 学部評議員(00)	04. 3
國分 信	慶応義塾大学大学院(修士)法学研究科(民事法)修了・法学修士	鹿児島女子短期大学教養学科教授	94. 4	教授				03. 3
小林 侅史	早稲田大学大学院(博士)理工学研究科(電気工学)・工学博士	埼玉大学科学技術研究所教授	94. 4	教授		99. 4	入試委員長(94～97), 情報科学センター長(94, 96～99), 学部評議員(94～97)	
柴山森二郎	東北大学文学部文学科・School of Education, Seattle Pacific Univ. (USA), M. Ed.	群馬大学医療技術短期大学部教授(本学経済学部兼任講師)	94. 4	教授				
手塚 映男	東京教育大学東京高等師範学校理科第3部(植物学)	国立科学博物館筑波実験植物園長	94. 4	教授		99. 4		02. 3
寺村由比子	慶応義塾大学工学部応用化学科	国立国会図書館立法考査局専門調査員・青山学院大学文学部教育学科兼任講師	94. 4	教授			図書館長(97～99), 学部評議員(98～99)	01. 3
戸田 光昭	慶応義塾大学文学部図書館学科	姫路独協大学一般教育学部教授	94. 4	教授		99. 4	教務委員長(94～97), 就職部長(00), 学部長(01～現), 学部評議員(94～97)	

氏名	最終学歴・学位	前職	着任年月	着任時 職階	昇任年月	大学院 担当	役職	退職 年月
鳥居 壮行	福岡大学商学部商学科	財日本情報処理開発協会情報セキュリティ対策室主任研究員	94. 4	教授		99. 4	就職部長 (01)	
西岡 久雄	東京大学経済学部経済学科	青山学院大学経済学部教授・学長	94. 4	教授			学部評議員 (98～99), 大学評議員 (01. 4～ 03.10)	01. 3
西野 泰司	早稲田大学第一政治経済学部新聞学科	日本放送協会放送文化研究所主幹研究員	94. 4	教授			大学入試センター試験実施委員会副委員長 (97), 入試委員長 (98～99), 学部評議員 (00～01)	02. 11 逝去
NEWMAN, Wayne Edward.	Biola Univ. Talbot Theological Seminary, California (USA). M.A.T.S./B.D.	共立女子短期大学文科助教授(本学経済学部兼任講師)	94. 4	教授				01. 3
野村 文保	早稲田大学大学院(修士)文学研究科(西洋史)・文学修士	国立国会図書館総務部司書監・業務機械化室長・調査及び立法考査局専門調査員	94. 4	教授				98. 3
林 瑞枝	早稲田大学政治経済学部経済学科	専修大学法学部兼任講師	94. 4	教授				04. 3
原田 三朗	東京大学文学部西洋史学科	毎日新聞社論説委員・本学経済学部教授(90. 4着任), (文化情報学部設立準備委員, 92. 4～94. 3)	94. 4	教授		99. 4	企画広報委員長 (94～01), 学部評議員 (94～97), 大学院研究科長 (00～現在)	
広瀬 順皓	早稲田大学大学院(修士)政治学研究科(政治思想史)修了, 政治学修士	国立国会図書館専門資料部主任司書	94. 4	教授		99. 4	入試委員長 (00～01), 学部評議員 (02～現), 教務委員長 (02～03)	
岩熊 史朗	慶応義塾大学大学院(博士)社会学研究科(社会学)修了, 博士(社会学)	東海大学短期大学部兼任講師	94. 4	助教授	教授 (02. 4)			

氏名	最終学歴・学位	前職	着任年月	着任時 職階	昇任年月	大学院 担当	役職	退職 年月
大久保恒治	神戸商科大学大学院 (博士) 経済学研究科 (単位取得退学)・ 経済学修士	福井工業大学工学部 経営工学科専任講師	94. 4	助教授		02. 4		
岡部 建次	東京大学大学院 (博士) 工学系研究科(先端学際工学) (単位取得退学)・経営学 修士	横浜市立大学商学部 兼任講師	94. 4	助教授				
加藤 修子	慶応義塾大学大学院 (博士) 文学研究科 (図書館・情報学) (単位取得退学)・ M.S. (シモンズ大学, USA)	フェリス女学院大学 音楽学部兼任講師	94. 4	助教授	教授 (01. 4)	99. 4		
岸田 和明	慶応義塾大学大学院 (博士) 文学研究科 (図書館・情報学) (中退)・文学修士	図書館情報大学図書 館情報学部助手	94. 4	助教授	教授 (02. 4)	99. 4		
金 容媛	慶応義塾大学大学院 (博士) 文学研究科 (図書館・情報学) (単位取得退学)・ 文学修士	文部省学術情報セン ター研究開発部助手	94. 4	助教授	教授 (98. 4)	99. 4	教務委員長 (00～01), 学部評議員 (01)	
塚本美恵子	Columbia Univ. Teachers College, Family and Com- munity Education, M.A.	本学経済学部兼任講 師	94. 4	助教授	教授 (03. 4)			
寺嶋 秀美	北海道大学大学院 (博士) 理学研究科 (化学第二) (単位 取得退学)・理学修 士	学習院大学計算機セ ンター助手	94. 4	助教授				
杜 正文	早稲田大学大学院 (博士) 理工学研究 科(機械工学) (単 位取得退学)・工学 修士	群馬女子短期大学経 営情報学科助教授・ 本学経済学部兼任講 師	94. 4	助教授	教授 (03. 4)	03. 4		
三輪 玲子	慶応義塾大学大学院 (博士) 文学(独文 学) (単位取得退 学)・文学修士	本学法学部・経済学 部兼任講師	94. 4	助教授				01. 3
門馬 幸夫	駒澤大学大学院 (博 士) 人文科学研究科 (社会学) (単位取 得退学)・社会学修 士	東京立正女子短期大 学英米語学科兼任講 師	94. 4	助教授	教授 (01. 4)		入試委員長 (02～03), 学部評議員 (02～03)	

氏名	最終学歴・学位	前職	着任年月	着任時 職階	昇任年月	大学院 担当	役職	退職 年月
桂 啓壯	慶応義塾大学大学院 (修士) 社会学(社 会学)・Columbia Univ. School of Li- brary Service (M. Sc.)	国際協力事業団国際 総合研修所技術情報 課	94. 4	講師	助教授 (98. 4)			04. 3
高橋 豊美	Dept. of Phonetics and Linguistics. University College London, Univ. of London. (単位取得 退学)・M.A. in Phonetics.	Univercity College London. 兼任講師	94. 4	講師	助教授 (98. 4)			
保坂 裕興	学習院大学大学院 (修士) 人文科学研究 科(日本史)修了・ 文学修士	学習院大学史料館助 手	94. 4	講師	助教授 (98. 4)			
村越 一哲	慶応義塾大学大学院 (博士) 商学研究科 (産業史・経営史) (単位取得退学)・ 商学修士	慶応義塾大学情報処 理教育室兼任講師	94. 4	講師	助教授 (98. 4)			
立木 定彦	(旧制)松本高等学 校理科乙類	国立劇場舞台技術部 部長・日本芸術文化 振興会参事	94. 4	教授				02. 3
壺阪 龍哉	慶応義塾大学経済学 部	㈱トムコーポレー ション代表取締役社 長	94. 4	教授		99. 4		
杉本由利子	慶応義塾大学大学院 (博士) 文学研究科 (図書館情報学)(単 位取得退学)・文学 修士	玉川大学文学部教育 学科兼任講師	95. 4	助教授				03. 3
青木 栄一	東京教育大学大学院 (博士) 理学研究科 (地理学) 修了・理 学博士	東京学芸大学教育学 部教授(名誉教授)	96. 4	教授		99. 4	大学入試セ ンター試験 実施委員会 副委員長 (00)	04. 3
大橋 泰二	立教大学大学院(博 士)社会学研究科(応 用社会学)(単位取 得退学)・文学修士	立教大学社会学部教 授・観光学科長	96. 4	教授		99. 4	教務委員長 (98~99), 学部長(00)	04. 3
今村 庸一	東京大学大学院(修 士)社会学研究科(社 会学) 修了・社会学 修士	早稲田大学理工学部 兼任講師(本学大学 院文化情報学研究科 兼任講師)	01. 4	教授				
内藤 嘉昭	桜美林大学大学院 (博士) 国際学研究 科修了・学術博士	奈良県立商科大学商 学部助教授	01. 4	助教授				

氏名	最終学歴・学位	前職	着任年月	着任時 職階	昇任年月	大学院 担当	役職	退職 年月
櫻井 千絵	慶応義塾大学大学院 (博士) 文学研究科 (独文学) (単位取得退学)・文学修士	慶応義塾大学総合政策学部兼任講師	01. 4	講師				
高山 正也	慶応義塾大学大学院 (博士) 文学研究科 (図書館・情報学) (単位取得退学)・文学修士	慶応義塾大学文学部 教授・同大学院文学 研究科委員(現職) (文化情報学部設立 準備委員: 92. 4 ~ 94. 3)	02. 4	大学院 客員教 授		02. 4	大学評議員 (90. 9 ~ 現)	
廣田傳一郎	成蹊大学政治経済学 部	茨城キリスト教大学 短期大学部教授	02. 4	大学院 客員教 授		02. 4		
中川 徹	東京大学大学院(博 士) 理学研究科(科 学史・科学基礎論) (単位取得退学)・ 理学修士	横浜商科大学商学部 教授(本学文化情報 学部兼任講師)	02. 4	教授				
福永 昭	Dept. of Tourism Planning and De- velopment, Surrey Univ. (UK). M. Sc.	亜細亜大学経営学部 教授(本学文化情報 学部兼任講師)	02. 4	教授		03. 4		
SAWAZAKI, Renée Alice.	School for Interna- tional Training, M.A. in Teaching English as a Second Langu- age. Univ. of California at Berkeley. BA. (Ma- jor: Economics)	立教大学ランゲージ センター嘱託講師	02. 4	講師				
戸村 栄子	明治学院大学社会学 部社会学科	NHKメディア経営 部主任研究員	03. 4	教授				
石田 栄美	慶応義塾大学大学院 (博士) 文学研究科 (図書館・情報学) (単位取得退学)・ 修士(情報学)	国立情報学研究所情 報学資源研究セン ターCOE研究員	03. 4	講師				
久我 晃広	早稲田大学大学院 (博士) 人間科学研 究科(健康科学)(単 位取得退学)・人間 科学修士	早稲田大学体育局兼 任講師(本学非常勤 職員・ホッケー部監 督)	03. 4	講師				

## 教員別担当授業一覧

(作製：青木栄一)

## 1. 専任教員

氏名	担当授業 (年度)
安澤 秀一	文化情報社会史 (94—98), 文化情報学概論 (95—97), 記録情報学 (95—00), 文化情報学総論 (98—01), 感覚情報資源論 (98), ゼミ3 (96—99), ゼミ4 (97—99), ●文化情報学演習 (99—01), ●文化情報学特殊講義 (99—01), ●記録資料情報学特論 (99—01), ●電子記録論特論 (99—01)。
大木昭一郎	健康・スポーツ科学論 (94—03), スポーツ科学実習 (94—98, 00), レクリエーション論 (96—03), スポーツ科学演習 (98—01), スポーツ情報資源論 (98—02), 健康・スポーツ実習 (01—03), 健康・スポーツ演習 (02—03)。
國分 信	知識情報学概論 (95—97), 図書館情報学 (95—02), 図書館・情報センター経営論 (96—01), 企業記録論 (96—01), 知識情報資源論 (98—01), プレゼミナール (95—00), ゼミ3 (96—00), ゼミ4 (97—02)。
小林 伸史	システム科学 (94—03), 情報処理概論 (94—01, 03), 情報処理実習 (94—01, 03), 情報管理概論 (95—03), マルチメディア論 (96—03), ゼミ3 (96—03), ゼミ4 (97—03), マルチメディア実習 (02—03), ソフトウェア制作論 (03), ●文化情報学演習 (99—03), ●情報システム特殊研究 (99—02), ●情報応用技術特殊研究 (99—02), ●情報処理言語特殊研究 (03), ●情報ネットワーク特殊研究 (03), ●マルチメディア論特論 (03)。
柴山森二郎	英語 (94—03), 英語演習 (01—03), 海外語学研修〈英語〉(01—02)。
手塚 映男	博物館情報学 (95—01), 展示表現論 (96—01), プレゼミナール (95—00), ゼミ3 (96—99), ゼミ4 (97—00), ●博物館情報学特論 (99—01)。
寺村由比子	保存科学 (95—97), 情報資料論 (96—00), 参考資料論 (96—97), 記録媒体保存論 (98—00), 参考調査論 (98—00), 専門資料論 (98—00), プレゼミナール (95—00), ゼミ3 (96—00), ゼミ4 (97—01)
戸田 光昭	資料検索論 (94—02), 論文執筆法 (94—98, 00), 研究調査法 (94—97), 情報サービス論 (96—02), 蔵書構築論 (96—00), 資料組織論 (99), ゼミ3 (96—03), ゼミ4 (97—03)。参考業務演習 (01—03), 参考調査論 (01), 情報施設実習 (01), 企業記録論 (02—03), 児童サービス論 (02), 情報サービス概論 (03), 図書館情報学 (03), ●文化情報学演習 (99—03), ●図書館情報学特論 (99—01), ●情報メディア論特論 (99—01)。
鳥居 壮行	情報化社会論 (95—00), 情報処理実習 (95—01, 03), コンピュータ・セキュリティ論 (96—97), 情報セキュリティ概論 (95—97), セキュリティ分析論 (98—03), システム監査論 (98—03), 情報セキュリティ論 (98—03), ゼミ3 (96—03), ゼミ4 (97—03), 情報処理インターンシップ (01, 03), 電子ビジネス論 (01—03), 情報関連専門職 (03), ●文化情報学演習 (99—03), ●情報セキュリティ特別研究 (99—03), ●情報関連専門職特論 (03)。
西岡 久雄	観光地域論 (95—00), 都市空間論 (95—00), 観光経済学 (96—00), 地域開発論 (96

- 00), プレゼミナール (95—00), ゼミ 3 (96—99), ゼミ 4 (97—00)。
- 西野 泰司 映像メディア論 (96—01), 映像資料組織論 (96—97), 映像アーカイブス論 (96—01), 映像資料論 (96—02), 映像情報論 (98—02), 感覚情報資源論 (99—01), プレゼミナール (95—97), ゼミ 3 (96—01), ゼミ 4 (97—01), 博物館実習 (01)。
- NEWMAN, W.E. 英語 (94—00)。
- 野村 文保 記録管理論 (96—98), 書誌学 (96—98), プレゼミナール (95—97), ゼミ 3 (96—98), ゼミ 4 (97—98)。
- 林 瑞枝 比較文化論 (94—03), フランス語 (94—03), 外国語入門 (98—03), 海外語学研修〈フランス語〉(02)。
- 原田 三朗 情報関連職倫理 (95—97), 情報メディア概論 (95—02), マスメディア論 (95—03), 情報産業論 (96—01, 03), ニューメディア論 (95—97), 情報メディア倫理 (98—02), プレゼミナール (95—97), ゼミ 3 (96—03), ゼミ 4 (97—03), 生涯学習概論 (01—03), 文化情報学演習 (99—03), ●情報メディア倫理特論 (99—03), ●マスメディア論特論 (99—03), 文化情報学特殊講義 (02—03), ●公務員倫理特論 (02—03)。
- 広瀬 順皓 行政史 (94—03), 行政管理論 (94—00), 史料管理論 (96—02), 行政記録論 (96—01), 古書体購読 (96—00), 文化情報社会史 (99—02), プレゼミナール (94—97), ゼミ 3 (96—03), ゼミ 4 (97—03), 政治行政論 (01—03), 博物館実習 (01—03), 記録史料論 (02—03), 文化情報学総論 (02—03), 情報処理インターンシップ (03), ●文化情報学演習 (99—03), ●行政資料論特論 (99—03), ●文化情報学特殊講義 (02—03)。
- 岩熊 史朗 論文執筆法 (94—00), 行動科学 (94—03), 認知心理学 (94—03), コミュニケーション論 (94—03), ゼミ 3 (96—03), ゼミ 4 (97—03), プレゼミナール (98—00), 情報処理実習 (01, 03),
- 大久保恒治 情報処理概論 (94—01), 情報処理実習 (94—03), ゼミ 3 (96—03), ゼミ 4 (97—03), 情報処理演習 (03), テキスト処理論 (03), ●データベース設計特論 (02—03)。
- 岡部 建次 情報処理実習 (94—01, 03), 情報システム論 (95—01, 03), 情報システム設計論 (95—01, 03), 応用情報処理実習 (98—99, 01—03), ゼミ 3 (96—03), ゼミ 4 (97—03)。
- 加藤 修子 論文執筆法 (94—00), 音響メディア論 (96—03), 音響資料組織論 (96—97), 音響アーカイヴス論 (96—03), 音響資料論 (98—03), 資料組織論 (99), ゼミ 3 (96—03), ゼミ 4 (97—03), 音響情報論 (01—03), 情報施設実習 (01, 03), 情報施設実習 (01, 03), 図書館サービス論 (03), ●音響資料管理論特論 (99—03)。
- 岸田 和明 資料検索法 (94—98, 00), 情報関連統計学 (94—03), 知識ベース論 (96—00), 計量書誌学 (96—97), 情報関連数学 (98—03), 計量情報学 (98—00), 情報施設システム管理論 (98—01), 資料組織論 (00), ゼミ 3 (96—98, 00—03), ゼミ 4 (97—98, 01—03), 記録情報学 (01—03), 情報検索演習 (01, 03), 情報検索論 (01, 03), 電子図書館論 (02), 図書館・情報センター経営論 (02), 電子情報システム論 (03), ●電子図書館論特論 (99—01), ●情報検索論特論 (99—03), ●文化情報学特殊講義 (02—03), ●電子記録論特論 (02—03)。
- 金 容媛 資料検索法 (94—02), 研究調査法 (94—97), 情報分析論 (96—02), 情報環境論 (96—00), 図書館情報政策論 (96—98), 外国語入門 (韓国語) (98—00), 情報資源施設

- 政策論 (99—01), ゼミ3 (96—02), ゼミ4 (97—02), 情報資料論 (01—03), 情報政策論 (02—03), 図書館・情報センター経営論 (02—03), 海外語学研修 (韓国語) (03), ●研究調査法 (99—03), ●情報資源管理論特論 (99—03), ●文化情報学演習 (03)。
- 塚本美恵子 英語 (94—03), 英語演習 (01—03), ゼミ3 (03)。
- 寺嶋 秀美 情報処理実習 (94—01, 03), データベース論 (95—01), 応用情報処理実習 (98—99, 01—03), ゼミ3 (96—03), ゼミ4 (97—03), ネットワーク構築論 (03)。
- 杜 正文 情報処理概論 (94—01, 03), 情報処理実習 (94—01, 03), データベース設計論 (95—03), ゼミ3 (96—01, 03), ゼミ4 (97—01), 情報空間論 (03), ●情報システム特殊研究 (03)。
- 三輪 玲子 ドイツ語 (94—00), 外国語入門 (98—00)。
- 門馬 幸夫 資料検索法 (94—00), 論文執筆法 (94—00), 余暇社会学 (98—03), 知識社会学 (98—03), ゼミ3 (96—03), ゼミ4 (97—03), 情報化社会論 (01—03), 情報行動論 (01, 03), 文化観光論 (01—03), 文化情報社会史 (02—03)。
- 桂 啓壮 資料検索法 (94—00), 研究調査法 (94—97), ユーザーズスタディズ (96—03), 参考調査論 (96—97), 検索サービス論 (98—01), ゼミ3 (96—03), ゼミ4 (97—03), プレゼミナール (98—00), 資料組織演習 (01—02), 情報表現論 (01—02), 専門資料論 (01—03), ネットワーク情報検索論 (02—03), 参考業務演習 (03)。
- 高橋 豊美 言語学 (94—03), 英語 (94—03), 英語演習 (01—03), 音響音声学 (01—03), 海外語学研修 (01—02), ゼミ3 (01)。
- 保坂 保興 論文執筆法 (94—99), 研究調査法 (94—97), 歴史史料論 (96—97), 古書体購読 (96—03), ゼミ3 (96—99, 01—03), ゼミ4 (97—98, 02—03), デジタル・アーカイブ論 (01—03), 博物館実習 (01—03), 歴史資料論 (98—03), 博物館文書館ドキュメンテーション (02—03), 文化情報社会史 (03)。
- 村越 一哲 論文執筆法 (94—99), 研究調査法 (94—97), 産業史 (94—03), 組織記憶論 (95—03), ゼミ3 (96—98, 01—03), ゼミ4 (97—98, 02—03), プレゼミナール (98, 00), 情報処理実習 (01, 00), 歴史コンピューティング論 (01—03)。
- 立木 定彦 文化環境設計論 (96—01), 環境芸術論 (96—01)。
- 壺阪 龍哉 記録管理論 (96—03), オフィス・マネジメント論 (96—03), ゼミ3 (96—03), ゼミ4 (97—03), ●記録管理論特論 (99—03), ●オフィスマネジメント特論 (99—03)。
- 杉本由利子 資料検索法 (94—02), 研究調査法 (94—97), 情報検索論 (96—99), 検索技術論 (98—02), 資料組織論 (00—02), ゼミ3 (96—02), ゼミ4 (97—02), プレゼミナール (98—00), 資料組織演習 (01—02), 情報組織化論 (02)。
- 青木 栄一 文化地理学 (96—03), 観光情報資源論 (96—01), 交通情報論 (96—03), 産業考古学/産業文化遺産論 (98—03), 感覚情報資源論 (99—01), 地図情報論 (01—03), プレゼミナール (96—00), ゼミ3 (96—02), ゼミ4 (97—03), ●文化情報学演習 (99—03), ●文化地理情報論特論 (99—03)。
- 大橋 泰二 観光情報学 (95—03), ホスピタリティ経営論 (96—01), 観光行動論 (96—03), 観光産業論 (98—01), ゼミ3 (96—02), ゼミ4 (97—03), プレゼミナール (96—00), 観光インターンシップ (01), ●文化情報学演習 (99—03), ●景観観光情報論特論 (99



	—03)。
高山 正也	●文化情報学演習 (02—03), ●図書館情報学特論 (02—03), ●電子図書館論特論 (02—03), ●情報メディア論特論 (02—03)。
廣田傳一郎	●文化情報学演習 (02—03), ●業務文書管理論特論 (02—03), ●行政文書管理論特論 (02—03), ●オフィス・スタディース特論 (02—03)。●行政情報システム特論 (02—03)。
今村 庸一	映像・音響制作演習 (01—03), ジャーナリズム論 (01—03), マルチメディア制作論 (01—03), 映像・音響制作実習 (02—03), ゼミ 3 (01—03), ゼミ 4 (02—03), ●映像資料管理論特論 (01—03)。●文化情報学演習 (03)。
内藤 嘉昭	観光経済学 (01—03), 地域開発論 (01), 都市空間論 (01—03), 観光産業立地論 (02—03), 観光産業論 (02—03), 国際観光論 (02—03), ゼミ 3 (01—03), ゼミ 4 (02—03)。
櫻井 千絵	外国語入門 (01—02), ドイツ語 (01—03), 海外語学研修〈ドイツ語〉(03), ゼミ 3 (03), 西洋文化論〈現代文化学部〉(03)。
中川 徹	科学技術史 (02—03), 地球環境論 (02—03), 博物館概論 (02—03), 博物館資料論 (02—03), 博物館実習 (02—03), 博物館情報学 (02—03), ゼミ 3 (02—03), ゼミ 4 (03)。
福永 昭	観光インターンシップ (02—03), 観光情報資源論 (02—03), 観光マーケティング (02—03), ホスピタリティ経営論 (02—03), ゼミ 3 (02—03), ゼミ 4 (03), ●文化情報学演習 (03)。
SAWAZAKI, R.A.	英語 (02—03), 英語演習 (02—03), 海外語学研修 (03)。
戸村 栄子	映像アーカイブ論 (03), 映像情報論 (03), 映像資料論 (03), 映像メディア論 (03), 博物館実習 (03), ゼミ 3 (03)。
久我 晃広	健康・スポーツ演習 (03), 健康・スポーツ実習 (03), スポーツ情報資源論 (03)。
石田 栄美	検索技術論 (03), 電子図書館論 (03), 資料組織論 (03), 資料組織論演習 (03), 情報組織化論 (03), 資料検索法 (03), ゼミ 3 (03)。

● = 大学院関係

ゼミ 3, ゼミ 4 : それぞれ 3 年次, 4 年次学生担当ゼミの意, 正式名 = ゼミ I・II (94—01), ゼミ I / II・ゼミ III / IV (02—03)。オリエンテーション・ゼミナール (1 年次学生担当) (01—現) は全教員が担当するため本欄からは省略。同名の教科目で, I, II 等の区分を付したものは同種のものとして統合。

## 2. 他学部の専任教員

氏名	学部	担当授業 (年度)
和田 英夫	法	情報関連法学 (94—97)。
荒憲 治郎	経	情報関連経済学 (94—99)。
信岡 奈生	経→現	文化人類学 (94—03), 海外語学研修〈スペイン語〉(03)。
狐塚賢一郎	法	スポーツ科学実習 (94—99), スポーツ科学演習 (98—01), 健康・スポーツ実習 (01—03), 健康・スポーツ演習 (02)。
飯野 利夫	経	会計原理 (95)。

土方 幹夫	経	スポーツ科学実習 (98—00), スポーツ科学演習 (98—01), 健康・スポーツ実習 (01—03), 健康・スポーツ演習 (02—03)。
吉野 貴順	法	スポーツ科学実習 (98—00), スポーツ科学演習 (98—01), 健康・スポーツ実習 (01, 03)。
大貫 秀明	法→現	スポーツ科学実習 (99), スポーツ科学演習 (98—01), 健康・スポーツ実習 (01—03), 健康・スポーツ演習 (02—03)。
橋本 尚	経	会計学原理 (98—00)。
明石 真和	経	海外語学研修〈ドイツ語〉(00—02)。
前山加奈子	経	海外語学研修〈中国語〉(01, 03)。
太田 隆士	法→現	海外語学研修〈ドイツ語〉(01—03), ドイツ語演習 (03)。
増田久美子	現	海外語学研修〈英語〉(02—03)
秋池 宏美	法	教育学概論 (01—02)。
牧 柁名	経	教育学概論 (01—02)。
秋山 洋子	経	日本語 (02—03)。
池野 秀弘	経	情報関連経済学 (03)。
林 好雄	経	フランス語演習 (03)

学部略号

法 = 法学部

経 = 経済学部

現 = 現代文化学部

### 3. 兼任講師

氏 名	担当授業 (年度)
南山 弘之	プレゼンテーション法 (94—02), 創作過程論 (96—02)。
中川 徹 <sup>1)</sup>	科学史 (94—97), 技術史 (94—97), 地球環境論 (94—01), 科学技術史 (98—01)
片山 素秀	現代思想 (94—03)
ワシオ・トシヒコ	芸術文化論 (94—03)。
斎藤 毅	文化地理学 (95)
江藤 盛治	人類生物学 (94—99)。
立花 桂	英語 (94—03)。
渡辺 浩子	英語 (94—03)。
LAWRENCE, A.H.	英語 (94—03)。
PENNINGTON, H.W.	英語 (94—03)。
TURNER, H.D.	英語 (94—95)。
宮川 尚理	ドイツ語 (94—97)。
土屋 良二	フランス語 (94—97)。
志銀 志栄	中国語 (94—95, 99—00)。
祁 放	中国語 (94—03)。
佐々木 彰	ロシア語 (94—98)。

松尾由紀子	日本語 (94—03), 論文執筆法〈留学生〉(98—00), 外国語入門 (98—03), 日本語入門 (98—02), 日本語演習 (02—03)。
太田 可充	情報ネットワーク論 (96—02), テレコミュニケーション論 (96—01)。
斎藤 弘行	経営システム論 (95—02)。
竹下 晴信	編集技術論 (95—03)。
水谷 直樹	知的所有権論 (95—96)。
根本 昭	芸術経営論 (96—97)。
吉兼 秀夫	余暇文化社会学 (96—97)。
梅澤 伸嘉	消費心理学 (96—97), 消費者心理学 (98—01)。
藤井 教公	比較宗教学 (96—97)。
高山真知子	知識社会学 (96—97)。
坂本 勇	記録媒体修復論 (96—97), 記録媒体複製論 (96—97), 記録媒体修復・複製論 (98—02), 記録媒体保存論 (01—03)。
GAINER, G.T.	英語 (96—03)。
小林 二男	中国語 (96—03), 外国語入門 (98—02)。
井上 良二	会計原理 (96—97)。
吉田 大輔	知的所有権論 (97)。
日笠 完治	情報関連法学 (98—01), 日本国憲法 (02)。
岩川 眞紀	スポーツ科学実習 (98, 00), 健康・スポーツ実習 (01—03)。
奥村 広重	スポーツ科学実習 (98, 00), 健康・スポーツ実習 (01)。
中川 直樹	スポーツ科学実習 (98, 00, 03), 健康・スポーツ実習 (01—02)。
濁川 孝志	スポーツ科学実習 (98—00), スポーツ科学演習 (98—01), 健康・スポーツ実習 (01—03), 健康・スポーツ演習 (02—03)。
笛木 寛	スポーツ科学実習 (98—00), スポーツ科学演習 (99—01), 健康・スポーツ実習 (01—03), 健康・スポーツ演習 (02—03)。
石原 啓次	スポーツ科学実習 (00), スポーツ科学演習 (98—01), 健康・スポーツ実習 (01—03), 健康・スポーツ演習 (03)。
石山 郁朗	スポーツ科学演習 (98—01), 健康・スポーツ実習 (01—03), 健康・スポーツ演習 (02—03)。
古賀浩二郎	スポーツ科学実習 (00), スポーツ科学演習 (98—00)。
近藤 良享	スポーツ科学演習 (98—01), 健康・スポーツ実習 (01—03), 健康・スポーツ演習 (02—03)。
坂下 博之	スポーツ科学実習 (00), スポーツ科学演習 (98—01), 健康・スポーツ実習 (01—03), 健康・スポーツ演習 (02—03)。
杉山 仁志	スポーツ科学実習 (99), スポーツ科学演習 (98—01), 健康・スポーツ実習 (01—03), 健康・スポーツ演習 (02)。
福島 邦男	スポーツ科学演習 (98—01), 健康・スポーツ実習 (01—03), 健康・スポーツ演習 (02—03)。
松林幸一郎	スポーツ科学実習 (99), スポーツ科学演習 (98—01), 健康・スポーツ実習 (01—03)。
福田 二郎	海外語学研修〈英語〉(98)。

- 細野 豊 外国語入門 (98—02), スペイン語 (99—03), スペイン語演習 (03)。  
鈴木 裕司 制作技術論 (98—03)。  
作花 文雄 知的所有権論 (98)。  
枝川 明敏 芸術経営論 (98—03)。  
福永 昭<sup>2)</sup> 国際観光論 (98—01), 観光マーケティング (01)。  
丸井 浩 比較宗教学 (98—03)。  
鈴木 康之 出版流通論 (98—03)。  
李 熒嬢 韓国語 (99)。  
射場 俊郎 知的所有権論 (99—03), マルチメディア著作権論 (01—03)。  
大沼 清輝 書誌学 (99—02)。  
加茂川益郎 情報関連経済学 (00—02)。  
海部 陽介 人類生物学 (00—03)。  
申 奎燮 韓国語 (00—03), 外国語入門 (01—02), 韓国語演習 (03)。  
WITT JACK,M. 英語 (01)。  
MUELLER, K. 英語 (01)。  
天野 武男 海外語学研修〈英語〉(01—02)。  
佐々木敏博 会計学原理 (01—03)  
渡辺れい子 児童サービス論 (01, 03)。  
CLARKE, A. 英語 (02—03)。  
西原 大輔 海外語学研修〈中国語〉(02), 海外語学研修〈韓国語〉(03)。  
手塚 映男<sup>3)</sup> ゼミ4 (02), 展示表現論 (02—03), 博物館実習 (02), ●博物館情報学特論 (02—03)。  
高井 邦子 フランス語 (02)。  
戸村 栄子<sup>4)</sup> 映像アーカイブス論 (02)。  
西川 真裕 テレコミュニケーション論 (02)。  
波多野宏之 環境芸術論 (03), 文化環境設計論 (03), ●美術情報資源論特論 (99—03)。  
猪狩栄次朗 経営システム論 (03),  
新田登志子 消費者心理学 (03)。  
稲 正輝 情報関連法学 (03), 日本国憲法 (03)。  
ALFONDS, S.D. スペイン語 (03)。  
小室 直樹 ●政治文化特論 (99—02)。  
今村 庸一<sup>5)</sup> ●映像資料管理論特論 (99—00)  
福間 眞樹 ●業務文書管理論特論 (02—03), ●行政文書管理論録論 (02—03)。  
西村 健 ●行政組織管理論特論 (02—03)。  
青山 英幸 ●記録史料情報学特論 (03)。

1) 02年4月文化情報学部教授

2) 02年4月文化情報学部教授

3) 02年3月文化情報学部教授を退職後, 兼任講師として任用

4) 03年4月文化情報学部教授

5) 01年4月文化情報学部教授

● = 大学院関係

# 専任教員に対する研究支援

(作製：青木栄一)

## 1. 文部（科学）省科学研究費

年度	氏名	種目	研究課題	期間
1995	加藤 修子	一般C	文化情報施設におけるサウンドスケープデザイン	～1996
1995	保坂 裕興	奨励A	近世百姓の知的技術に関する史料学的研究	単年度
1996	岡部 建次	基盤C	近代書簡体史料データベース設計・データの標準化の研究とデータベースの公開	～1997
1996	手塚 映男	基盤C	博物館における自然史展示と実態とその科学教育的意義に関する基礎研究	～1998
1997	大久保恒治	重点	文化・芸術に関する勤労者の意識及び行動に関する研究	単年度
1998	大久保恒治	特定A	現代社会人の文化・芸術に対する意識ならびに行動に関する分析	単年度
1998	広瀬 順皓	基盤C	明治初期官僚機構の成立に関する研究	～1999
1998	加藤 修子	基盤C	図書館のサウンドスケープデザイン—音環境に焦点をあてた図書館環境のマネジメント	～2000
2002	加藤 修子	基盤C	博物館における音の展示と音による環境づくり	～2004
2003	村越 一哲	基盤B	20世紀初頭における都市・農村の死亡率と人口移動に関する国際比較	～2005

## 2. 駿河台大学共同研究助成費

年度	研究代表者	共同研究者	研究課題	交付額 (単位：千円)
1994	広瀬 順皓	岩熊史朗, 大久保恒治, 岡部建次, 加藤修子, 岸田和明, 手塚映男, 戸田光昭, 西野泰司, 保坂裕興, 村越一哲, 門馬幸夫	埼玉県西部山麓地帯の基礎的研究—歴史的研究と文化的環境の研究による文化的構造の解明	1,070
1995	広瀬 順皓	岩熊史朗, 大久保恒治, 岡部建次, 加藤修子, 岸田和明, 手塚映男, 戸田光昭, 西野泰司, 保坂裕興, 村越一哲, 門馬幸夫	埼玉県西部山麓地域の文化構造の研究—地域の歴史, 文化, 自然環境の基礎的分析—	640
1995	柴山森二郎	桂啓壯, 高橋豊美, 杜正文, 鳥居壯行, 西川敏之 (法), 森本豊富 (経)	インターネット利用に関する基礎的研究	640
1996	太田 隆士 (法)	三輪玲子, 鈴木伸一 (法), 片岡哲史 (経), 明石真和 (経), 西村スザンネ (法, 非)	ドイツ社会の総合的理解と大学教育の研究	900
1996	広瀬 順皓	岡部建次, 松本三之助 (法), 沼田誠 (経)	明治政治史料デジタル・ライブラリ・システムの作成と研究	1,100

1997	広瀬 順皓	岡部建次, 松本三之助 (法), 沼田誠 (経), 他大学分担者1名	明治政治史料デジタル・ライブラリ・システムの作成と歴史研究への利用方法	1,200
1999	岡部 建次	西野泰司, 広瀬順皓, 橋本義一 (法), 沼田誠 (経)	問題解決型データベースシステムの開発・研究 (入試対策情報システムの開発・研究: 高校・短大・専門学校データベースの作成と活用研究)	850
1999	太田 隆士 (現)	三輪玲子, 明石真和 (経), 片岡哲史 (現)	ドイツ社会の総合的理解と大学におけるドイツ語教育の研究	750
2001	村越 一哲	岩熊史朗, 高橋豊美, 門馬幸夫	ウェブ上での記録史料閲覧システム構築に関する研究	850
2003	清海 節子 (経)	塚本美恵子, SAWAZAKI, R., 本多啓 (現)	駿河台大学の学生の英語力向上のための教材開発プロジェクト	500
2003	杜 正文	大久保恒治, 寺嶋秀美, 鳥居壮行	情報技術の活用による教育内容の質的向上	1,000

### 3. 駿河台大学出版助成費

年度	氏名	著作書名	出版社	刊行年月	助成費 (単位: 千円)
2001	内藤 嘉昭	富士北麓観光開発史研究	学文社	2002年3月	1,000

### 4. 在外研究員派遣

期間	氏名	派遣機関
98.8~99.8	岸田 和明	School of Information Management and Systems, Univ. of California, Berkeley. (USA).
99.9~00.9	村越 一哲	Cambridge Group for the History of Population and Social Structure, Univ. of Cambridge, Cambridge, (UK).
00.9~01.8	保坂 裕興	School of Library, Archive and Information Studies, Universitey College London, Univ. of London. (UK).
01.9~02.8	杜 正文	IET (Information and Educational Technology) Mediaworks, University of California, Davis. (USA).
02.9~03.8	高橋 豊美	Department of Phonetics and Linguistics, University College London, Univ. of London. (UK).
03.8~04.8	金 容媛	Graduate School of Library and Information Science, Center for International Library Program, Univ. of Illinois, Urbana Champaign. (USA)

## 5. 国際学会への参加・発表助成

年度	期間	氏名	会議名	開催地（開催国）
1998	6.6～14	桂 啓壮	クリミア98第5回国際会議	スダック（ウクライナ）
1998	8.17～21	大橋 泰二	1998年度アジア太平洋観光学会総会	舟陽（大韓民国）
1998	10.25～28	金 容媛	北京大学創立100周年記念国際会議	北京（中国）
1999	8.18～22	大橋 泰二	観光における安全と保障に関する国際会議	カルマル（スウェーデン）
1999	8.20～28	金 容媛	第65回国際図書館連盟年次総会・大会	バンコク（タイ）
2001	9.21～23	青木 栄一	保存鉄道50周年記念国際会議「21世紀の保存鉄道」	ヨーク（イギリス）
2001	10.4～6	大橋 泰二	観光・レジャー研究学会総会「観光革新と地域開発」	ダブリン（アイルランド）
2003	7.10～17	青木 栄一	第12回TICCIH（産業遺産保存に関する国際会議）	モスクワ・エカテリンブルグ・ニジギタジル（ロシア）
2003	8.21～22	岸田 和明	言語横断評価2003 ワークショップ	トロンハイム（ノルウェー）

## 資料

# 文化情報学部設置の趣旨

(『文化情報学部設置申請書』より抜粋)

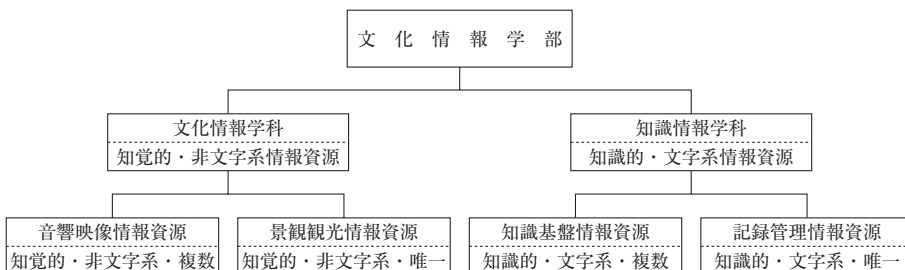
### I. 設置の趣旨

#### 1. 文化情報学部設置の理念

(1) 文化情報学とは—音響映像情報、景観観光情報、知識基盤情報、記録管理情報という四つのサブコンセプトから構築する学問研究分野を総称する概念です。

これからの情報化社会においては、人々が生活の全ての場面で情報を必要とし、それだけに情報が価値を高め、このような情報を取り扱う専門家としての情報プロフェッショナルが必要となります。文化情報学とは、端的に情報プロフェッショナルを必要とする部署において、情報提供の専門性を高度に発揮できるような論理的検討と合理的実践を行える人材の育成を目標とする学問領域ということができます。すなわち、それぞれの目的に応じた必要情報選択の理論と技法、また必要情報流通の理論と技法、そして情報資源蓄積保全の理論と技法の開発は、既存の学問的枠組みを超えた学際的思考を必要としております。言い換えれば、個別文化の歴史的独自性と人類の普遍的人間性を調和させるという現代の課題に挑戦するために、情報資源を有効に活用し、文化知識の創造に寄与し、国際的な文化交流に役立ち、さらに未来の人類に引き渡す文化資産の総目録を用意するという、新しい学問研究分野を開拓しなければなりません。その際、無限の情報資源について無限定に操作しても明確な成果は得られないでしょう。

そこで、一定の研究領域を設定する切り分け基準として、直接・間接の別はあるものの、五感によって知覚できる領域、言い換えれば、非文字系の情報資源と、情報データを表現する形態として文字・記号を使用する系列の情報資源という、二つを設定できます。また別の切り分け基準として、情報資源の存在形態ないし提供手段が複数あるもの、すなわち複数製作されている情報資源と、原則的には単数しかないもの、すなわち世に存在がただ一つの情報資源という、二つを設定することができます。これらを組み合わせて、情報資源について分野の領域設定をすると、知覚的・非文字系・複数形態の分野として音響映像情報資源を、知覚的・非文字系・唯一存在の分野として自然景観をはじめとする景観観光情報資源を、知識的・文字系・複数形態の分野として文献・コンピュータソフトウェア等の知識基盤情報資源を、知識的・文字系・唯一存在の分野として記録管理情報資源を、想定できることになります。そして、これらの蓄積・存在している情報資源を利用するにあたっての検索の手段として、知識や概念の操作による索引に依存する知識基盤・記録管理の情報資源と、知覚的・経験的な検索の比量の高い音響・映像・景観観光の情報資源に区別できます。さらに共通項で括れば、知覚的・非文字系の情報資源としての音響映像情報・景観観光情報と、知識的・文字系の情報資源としての知識基盤情報・記録管理情報とに、分けることができます。文化





情報学部では、前者を文化情報学科で扱い、後者を知識情報学科で扱うこととなります。このようなことから、ここでは、上記の音響映像情報、景観観光情報、知識基盤情報、記録管理情報という四つのサブコンセプトから構築できるような学問研究分野を設定し、総称して文化情報学という新しい概念に基づく新しい学部を構想する必要があります。

(2) 文化と情報—文化の歴史的独自性と人類の普遍的人間性をどのように調和させるかというテーマを解決する方法の一つとして知識の伝達と情報の共有化という考え方は必要不可欠なコンセプトであります。

人は地球という自然環境から学びながら、その属する社会集団を、他と区別できるような独自の存在として認知させるのに必要な行動様式を創りあげてきました。様々な契機で結ばれる様々な社会集団は、それぞれに特有な文化を共有することによって、一体感という帰属意識を形成してきました。言語、知識、生活様式、服装、食事、労働、社交、数えあげればきりがありません。文化とは、そうした人間の知恵と工夫についての知識を一定の社会集団における行動様式として体系化し、伝達継承してきた歴史的産物に他なりません。これを情報学的にみれば、社会的集合記憶と呼ぶことができます。歴史的産物としての文化と知識の伝達継承、つまり学習の可能性は、伝統や慣習という形態で実現されることもあれば、言葉や文字という形態でも実現できるのであります。他方、部族社会から今日の高度文明社会に至る長い歴史過程において、地球上の人類という存在の根底にある人間性のもつ普遍性への認識も深めてきました。来るべき21世紀の課題としては、それぞれに創り出されてきた文化の歴史的独自性と人類という種の普遍的人間性をどのように調和させるかが、全人類の観点から大きなテーマとなるでしょう。その解決への方法の一つとして知識の伝達と情報の共有化という考え方に基づき、継承・蓄積された情報を検索・利用する新たな知識情報の創造は、

必要不可欠なコンセプトであります。

(3) 知識の伝達と情報の共有化—文化情報の共有化には、情報の蓄積と確実・迅速なアクセス技法の整備が必要不可欠となります。

知識の伝達とは何なのか。人間の行動様式は時と場所によって変化しますが、一定の社会集団を構成する人々は、世代から世代へと、その行為の記憶を慣習や口承、あるいは画像や形象物で伝えることによって、系族の文化の記憶を共有してきました。しかし、集団規模の拡大は伝達手段の方法に大きな変化をもたらしました。地球上の各所における文字の発明であります。文字の発明つまり記録媒体の上に、頭脳内のその人限りの記憶を文字という記号で記し、固定化することによって、他者にとって読み取りを可能とし、距離を隔てた場所、あるいは時間を隔てた未来への伝達の可能性を大幅に拡大しました。つまり、文字の発明使用は、個人の記憶能力に依存していた伝達における限界を取り外し、それぞれの創り手たちから未来における担い手たちへ引渡す文化知識の集合資産とすることに成功したのであります。また、文字の手書きという一点生産技法に対して、活字印刷による複数生産技法の開発は、知識の流通と情報の共有化を促進し、知識革命ともいべき進展を人類に与えました。

さらに、ここ100年間の技術の進歩は、5000年来、使用されてきた記録媒体の変化をもたらし、知識の流通と情報の共有化について、印刷技術導入を上回る加速度的効果を生み出しました。19世紀末の銀版写真の発明を初めとし、最近における新しい媒体による記録作成手段の変化は著しいものがあります。フィルムベースの静止画像と動態映画、磁性ベースの音響・音声録音、電波による放送映像の録画といったことを可能にしました。また、文字記号を数値記号化した機械可読記録などもあります。つまり、これまでの人間の直接的な可視可読記録としての文字プラス紙記録と大きく異なるのは、機械的手段の介入を必要としますが、何時でも何処でも必要に応じて再生可能な

機械可読記録を生み出したことにあるでしょう。このようにして自然という天然資源に加えて、人為的な情報資源の量が爆発的に増加しました。こうして情報は、複雑な地層のように重層的な構造を形成することになりました。そして、この情報資源量増大の中身とは、生身の人間が五感によって知り得る直接可視の世界から、人間の知的操作によらなければ認知することのできない不可視の世界という、認知の世界を広げてきた人間の知恵の贈物なのであります。そして新しい記録技法は、文化情報の共有化への大きな広い道を創り出しました。われわれは、この大道を利用し、情報の蓄積と確実・迅速なアクセス技法の整備に努めることによって、文化の歴史的独自性と人類の普遍的人間性との調和へ貢献しなければなりません。

(4) **情報の共有化と情報資源—情報の共有化とは、情報アクセス手段が、誰にでも迅速正確、簡単明瞭にできるようになることであります。**

人類のとどまるところを知らない人口増加を支えてきた人口扶養力の発展は、それぞれの地域における固有の資源を活用し、また、それぞれの地域には欠けているけれども他の地域には存在している資源を流通させて、資源の有無を相補うという行動によって支えられてきました。人と物の流通システムは人間の知恵と工夫を働かせた大きな成果であります。ところで、地球という千変万化の自然環境の中で、一定地域はそれぞれに特有な景観をもっています。一定地域に定住し生活の糧を得てきた人々にとって、その日々における生活資源の獲得と景観の有りようは、一体不可分であり、精操を育む根底の感覚を提供するものであります。文化の形成にとって景観の有りようから触発される世界認識の行動様式はきわめて重要であります。景観そのものは移動させることはできません。しかし、景観に触発されて形成される文化意識には情報としての景観が内在されているといえます。文化を理解するための隠れた鍵として、景観情報は不可欠といえます。と同時に、人は異なる文化を育んだ環境景観に対し、文化理解の鍵

として自らの五感による追体験への欲求を抱き、実行しようとし、景観そのものを移動させることはできないので、人々は自らを移動させ、時として滞在して、自らの五感を通じて知覚し得る情報を獲得して、欲求を満足させようとし、人間は原初以来、旅をすることで、地球の上の至る所に足跡を残してきました。旅をするという行為は単純な好奇心に発するかにみえますが、獲得した新しい情報と、自らの内にある文化情報との比較を行うという、より高次の知識化行為へと導くことは可能であります。景観観光とはこのような意味で、人々にとって異文化交流のための根源的な知的文化行動となるのです。こうした五感による知覚を出発点とする情報享受としての直接的行為である観光行為に対して、様々な媒体による写真・音響・映像という手段が与える再現可能性の拡大は、景観にとどまらず、極めて多様な情報資源に対して、媒体介在という意味での間接的知覚・擬似的知覚による情報享受の手段を与えるものであります。まさに**情報の共有化へ**、さらには**知識の創造への一つのステップ**となるのであります。

このように歴史的文化的な展開を概観したとき、人間の生活を支え、かつ知的探求の対象となる資源とは、物的人的資源に限られるのではなく、情報もまた人類が活用してきた基本資源であることは、明らかであります。このような資源についての考え方は、これまでの文化財という考え方を拡大するものであります。**情報資源もまた人類の共同資産として未来に引き継ぐべき文化価値をもつものであります。**

さて、人間は、無限に存在し、蓄積されている情報資源から必要情報を選択し、体系的知識を構築してきました。この知識もまた情報資源に加えられるため、情報資源そのものはますます増大し、混沌複雑な様相を呈する重層的な構造をもつようになりました。こうした現状において、日常生活を営んでいくうえでも、また営利・非営利の様々な組織体、あるいは学術研究の場合においても、その業務を遂行するうえで、必要な情報を選択す

ることは、困難で高度な知的行為となってきました。例をあげればいわゆる生活情報雑誌に至るまで世の中に氾濫している現状は、上記の事柄の象徴といえます。情報の共有化とは、個人なり団体・機関が全ての情報をわが手に抱え込むのではなく、必要な情報が何処にあるのか、必要な情報を入手するにはどうしたらよいのか、といった情報アクセス手段が誰にでも迅速正確に、また簡単明瞭にできるようになることが第一のステップなのであります。

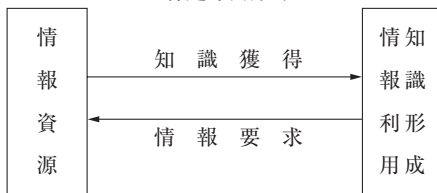
(5) 文化情報学の学問的性格と社会的役割—文化情報学は、情報資源の蓄積と情報財の流通、文化創造への社会的貢献、過去・現在・未来についての長期的省察という三つの観点から社会的役割を担うものであります。

これまでは情報の保管及び提供場所として、例えば公共施設としての図書館・博物館・文書館あるいはドキュメンテーションセンターなどが、その機能を果たしていると考えられてきました。実務的には、官庁や企業、その他非営利・営利を問わず、業務を遂行している組織体であれば、職員個人個人の頭の中や机の内外が情報の保管場所とされてきました。しかし、最近では、その非効率性に対する反省から、企業内情報資料センターで

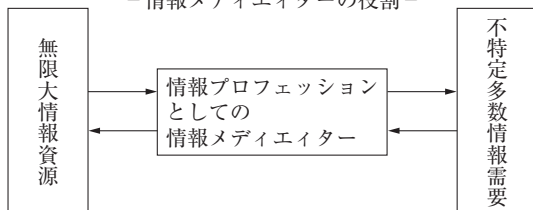
の集中管理に切り替える組織体も増えています。とはいえ組織体自身の創り出した記録情報や外部から受け入れ収集した記録情報の保管・蓄積・流通・アクセスといった事柄についての、社会的評価や制度的整備、また学問的検討そのものも、いまだ不十分な現状といえます。変化してきた社会的環境からの新しい要請に応じるためには、変化した状況を分析し、処理するための新しい学問分野の開拓が必要であります。変化してきた社会的環境からの新しい要請に応じるためには、変化した状況を分析し、処理するための新しい学問分野の開拓と新しい人材の育成が必要であります。これを情報プロフェッショナルの育成とってよいでしょう。しかし、ややもすれば情報テクノロジーや情報関連機器の設計開発の専門家と混同される恐れもあります。無限大に増加し、重層的な構造をもつようになった情報資源が一方の極にあり、他方、情報を必要としている不特定多数としての需要者・利用者の無限の欲求がある今日、その中間にあって供給と需要との適切な調整という役割が必要となっております。言い換えれば、情報プロフェッショナルとしてのメディアエィターつまり中間媒介という機能を果たす人材が要請されているといえましょう。情報流通については、高等学術研究の場ではすでにそれぞれの専門分野において実践的に遂行されております。しかし、それはより高度な中間媒介機能が求められ、この種の人材の育成の如何が次世紀・将来の学術研究・知識創造の如何を決定するとまでいわれております。さらに、普通の市民生活という場に眼を移したとき、日増しに複雑になり、繁雑化しつつある必要情報へのアクセスは、中間媒介機能を果たす情報メディアエィターの存在により、より豊かな生活と情報コストの低減に貢献することになります。

(1) 今日の洪水のようなメディア氾濫のなかで、より適切な必要情報を確実に入手したいという需要に対して、よりの確でより質の高い情報提供というサービス供給が行われなければなりません。情報資源の蓄積と情報財の流通という考え方は、文化情報学の一つの柱とな

高等学術研究レベルにおける情報流通  
—特定専門分野—



市民レベルにおける情報流通  
—情報メディアエィターの役割—



るものであります。

- (2) 公共施設としての図書館・博物館・文書館はもとより、個々の実務的業務遂行の場としての様々な組織体においても、業務の遂行から創り出される記録情報の存在が、国民的文化情報基盤を構成するシステムネットワークの一端を担っています。つまり、**文化創造への社会的貢献**という役割分担を考えることが、文化情報学を支える二つ目の柱となります。
- (3) 三つ目の柱として、自然の歴史と人間行為の歴史との相互作用を考えることが必要であり

ます。すべての現象は時間的推移のなかで、変化の度合いを異にしています。不変のようであり変化が起こったり、変化しているなかで変わらない要素もあります。**過去についての長期的省察**という方法から将来の展望と思考の柔軟性を学び取らなければなりません。情報は、複眼的取り扱いを必要としているのであります。

以上三つの柱からなる文化情報学は、**学際研究の新しい融合成果**として成立させなければならぬのであります。

## 『文化情報学部』は 情報を資源と捉えた 新しい情報学を学ぶ場です。

私たちはいま、毎日のように情報という言葉を目にし、さらにその情報が洪水のように溢れる中で生活しつづけています。人と話をする。新聞を開く。本を読む。テレビを観る。会議をする。ラジオや音楽を流す。旅をする。パソコンをたたく。人の話を小耳にはさむ。情報は日常のすべての場面に存在し、私たちはそれを自分のアンテナや、情報処理という機械的・技術的な方法でのみ、選び取ること、捨て去ることを繰り返してきました。

しかし、ここまで大量かつ多彩に、複雑に絡み合った情報に対し、従来の方法だけで対処しつづけていては、新しい情報化社会の創出は決して望めない——駿河台大学は「情報は資源である」という発想に立ち、これからの本格的な情報化社会に向け、一歩進んだ情報学を学び、研究する場『文化情報学部』を創設しました。

『文化情報学部』では、さまざまな社会集団が体系化し、伝承してきた言語や知識といった文化記憶（＝文化情報）を、物的資源や人的資源同様、人間生活に不可欠な基本資源と捉え、呼吸しつづける人類の共同財産として残そうという新しい視点ですべてのカリキュラムが組まれています。

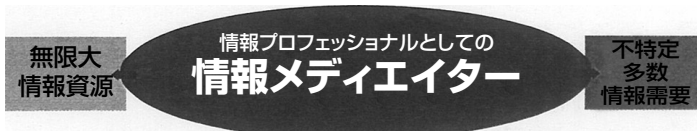
常に、今という時代を見据え、大学の主体である学生たちが活躍するであろう社会、求められる人材をイメージし、旧来の常識にとらわれない学問の場を創りつづけること。駿河台大学の開学以来のこの姿勢は、日本初の学部『文化情報学部』にも確実に踏襲されています。



学部長 安澤 秀一

## 情報のプロフェッショナル「情報メディエーター」

本格的な情報化社会に向け、新しい視点でスタートする『文化情報学部』。その目的は、量的にも拡大していく一方で、構造的にも複雑に絡み合い重なり合っていく情報に、的確な判断力と確実な能力で対処する情報プロフェッショナルとしての「情報メディエーター」の育成です。



一方に膨大な情報資源があり、他方には情報を必要とする無数の需要者・利用者が存在する。その中間にあつて需要と供給を適切かつ有効に結びつけていくという新しい能力を備えた人材、それが「情報メディエーター」です。21世紀の情報化社会は、有能なメディエーターが左右する——「情報メディエーター」の出現を、21世紀の社会が強く求めているのです。

## 新時代の担い手「情報メディエーター」の 情報に対する新しい発想

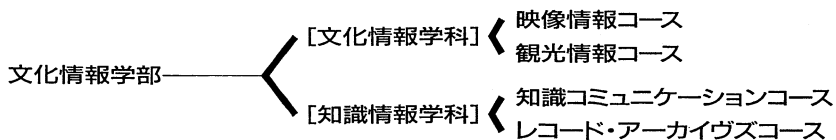
情報は資源であり、人類の共同財産として未来に伝えていくべき価値を持っている——『文化情報学部』はこの基本的観点により、その基礎となる情報流通サービスのための専門的な思考能力と実践技法を追求する学部として構想されています。具体的には、情報利用者の目的に対応した必要情報の選択、必要情報の流通、情報資源の[蓄積]に関わる理論と技法の研究開発。

そして、この情報の[蓄積]という概念の導入こそが、これまでの情報学の考え方との大きな違いなのです。

従来の情報系学部では、ひとつかたまりの情報を加工・処理する知識や技術の習得が中心でしたが、『文化情報学部』ではその技術に加えて、情報を保存し、その蓄積された情報に必要なに応じて素早く、的確にアクセスする方法や、情報の正確で効率的な利用技術など、広範な領域を立体的、実践的に学習します。つまり、情報を伝達のためだけの手段と捉えず、伝達と同時に蓄積することによって、人類の共有財産としてリサイクルしようという発想。

この発想こそが、単なる情報処理技術者ではない、情報流通システムのプロフェッショナル「情報メディエーター」そのものなのです。今日すでに高度な情報社会に生きる私たちにとって、この発想のうえにたつて情報を確実にコントロールできる「情報メディエーター」の存在が不可欠であることは、現時点でもあらゆる組織、あらゆる職域で明らかとなっています。『文化情報学部』は時代が求める人材、本格的な情報化社会で活躍する情報のプロフェッショナル「情報メディエーター」を誕生させます。

### 学科構成



社会に溢れる情報を貴重な資源として記録、管理、保存、活用して、人類の発展や福祉のために役立てることをメインコンセプトにする『文化情報学部』には、「文化情報学科」と「知識情報学科」の2学科が設けられています。

「文化情報学科」は非文字の情報、つまり音響・映像情報や景観観光情報を対象にして、その保全・管理や、理論・技術の研究、教育を目的としています。「知識情報学科」は文字の情報、つまり図書資料などの知識基盤情報、ならびに公文書や組織体文書などの業務知識情報を対象としています。各学科はそれぞれ「映像情報コース」と「観光情報コース」、「知識コミュニケーションコース」と「レコード・アーカイヴズコース」に分類されています。

## 既存の大学教育にこだわらない 斬新な教育システム

### ▶ 大学教育に新風「オリエンテーション科目」の設置

入学直後の1年次春学期を、オリエンテーション学期とし、大学教育への導入教育にあてています。受験勉強など、入学までに習慣化した受け身の、暗記中心の学習態度を、まずは大学教育を学ぶ姿勢に変えることを目的としています。具体的な科目は、資料検索法、論文執筆法、研究調査法、プレゼンテーション法の4科目。いずれも学習・研究には不可欠な科目で、これにより1年次秋学期以降の基礎・基幹・専攻科目が自主的、効率的に学べることを狙いとしています。この導入学習も他の試み同様、従来の大学教育に新風を吹き込むシステムです。

### ▶ ボリューム & スピード & リズム3拍子揃った「セメスター制」

セメスター制を導入することにより、ゼミナール科目を除くほとんどの授業科目を半年単位で完結するシステムを採用しています。メリットは、コンパクトに凝縮されるため授業内容の密度が高められること。さらに多様な科目を設置できることで、科目選択の幅がぐんと広がること。知識の深さもさることながら、その幅広さも要求されるはずの「情報メディアエーター」を育成するためには必要かつ効率的なシステムとなっています。

### ▶ 使える人材を育てる「履修コースモデル」

広範な設置科目を履修するにあたり、ガイダンスによってきめ細かい学習指導を行い、明確で系統的な履修コースをアドバイスします。基礎的な学習から徐々に専門学習に積み上げることを重視し、各科目群を体系的に編成したカリキュラムは、使える人材、実力の備わった人材を育てます。

また、専任教員がファカルティアドバイザーとなり、学生生活上の問題や悩みなどについても相談できる制度も設けています。

### ▶ 学外研究機関ともネットされた最新・充実の教育設備

教育・研究レベルの向上と、事務処理の効率化のために情報科学センターを設置しています。学内のすべての設備を光ファイバーで結び、他の大学や研究機関とも接続できる高度なネットワークを築いています。また、高性能ホストコンピュータを中核に、パソコンやワークステーションで構築されたシステムによって、コンピュータ教室やコンピュータゼミ室、ワークルーム、情報科学教室などを活用する、充実した情報教育設備を整備しています。



### ▶ 「歓迎します」—留学生・社会人・帰国生徒—入学定員を設けた「特別入試」

外国人留学生、社会人及び帰国生徒のための特別入試において、各学科10名ずつ合計20名の入学定員を設定し、積極的な受け入れ制度を導入しています。外国人留学生のためには、専任教員によるアドバイザーや学生チューターによるバックアップ体制を整え、学習上や生活上の悩みを相談・解消し、充実した留学生活が営めるように準備しています。また、社会全体の生涯学習のニーズに応えるため、時間的制約が大きい社会人に対し、パートタイムで教育を受ける機会の提供として、科目登録制・コース登録制を実施し、履修形態に柔軟性を持たせています。これにより、社会人が各自の目的に沿った効率の良い学習が実現できます。

更に、旺盛な学習意欲をもちながら、従来の入試制度では大学進学が難しいと考えられる帰国生徒のために、小論文、常識問題及び面接による入試制度を採り入れるなど、積極的に進学の手助けを設けています。

# 『文化情報学』—駿河台大学文化情報学部紀要— 総目次

## 第1巻 (1995年3月)

和田英夫(学長)	創刊に寄せて	1
安澤秀一(学部長)	巻頭言「文化情報学」構築への提言	3-5

### 論文

広瀬 順皓	幕末維新时期における錦絵類の基礎的研究—錦絵データベース化への試み—	7-21
金 容媛	European Union (欧州連合) の情報インフラストラクチャー—情報政策遂行のメカニズムと情報システム—	23-38
門馬 幸夫	文化におけるイデオロギーとプラクティス	39-47
高橋 豊美	Aspects of the Theory of Phonological Licensing and Elements (1)	49-63
NEWMAN, Wayne Edward & Kumiko Tsukane	Cross-Cultural Analysis of Complaint Japanese and American	65-79
塚本美恵子	異文化理解教育としての短期留学—異文化理解のプロセスと教育効果	81-95
<b>資料</b>		
西岡 久雄	「日本ホスピタリティ研究会」について	97-102
戸田 光昭	図書館学教育のための演習問題作成の試み(1)—『逐次刊行物』(JLA 図書館選書5)のための設問と解答の例示(1)—	103-107

## 第2巻 (1995年12月)

### 論文

NEWMAN, Wayne Edward & Kumiko Tsukane	Pronunciation: To Teach or Not to Teach	1-8
高橋 豊美	Aspects of the Theory of Phonological Licensing and Elements (2)	9-27
門馬 幸夫	恫喝と救済—「救済」のメタファとその論理的構造—	29-36
岡部 建次・広瀬 順皓	個人文書目録データベースの作成—谷干城関係文書—	37-43

### 研究ノート

西岡 久雄	市場空間における独占と競争	45-52
野村 文保	コンピュータファイルの書誌記述—AACR2を中心にして—	53-65
寺村由比子	擬似紙に関する一考察	67-79

### 資料

戸田 光昭	図書館学教育のための演習問題作成の試み(2)—『逐次刊行物』(JLA 図書館選書5)のための設問と解答の例示(2)—	81-84
	1994年度研究会報告概要	85-87
	1994年度研究業績一覧	89-96

## 第3巻第1号 (1996年6月)

### 論文



岡部 建次・広瀬 順皓

公文別録データベースの作成 3-1

加藤 修子 図書館のサウンドスケープ・デザイン—公立図書館の音環境調査の報告— 7-23

金 容媛 韓国における図書館情報政策：法的側面を中心として 25-45

杜 正文 情報とマルチメディア 47-56

高橋 豊美 Revised Syllabification Principles for the Longman Pronunciation Dictionary 57-65

研究ノート

杉本由利子 1980年代のフランス図書館ネットワークの展開についての研究ノート 67-80

西岡 久雄 バトラーとティスデルの観光地域論 81-89

資料

戸田 光昭 図書館学教育のための演習問題作成の試み(3)—「蔵書構築論」のための演習問題— 91-94

林 瑞枝 フランスの1993年国籍法改正の適用状況—1994年の国籍取得者統計— 95-102

1995年度研究会報告概要 103-105

1995年度研究業績一覧 107-115

第3巻第2号 (1996年12月)

論文

大橋 泰二 Implications for Sustainable Tourism Development-with a Special Reference to Indonesia 117-123

岡部 建次・五島 敏芳・広瀬 順皓 明治政治史料デジタルライブラリシステムの作成と研究 125-129

加藤 修子 図書館におけるサウンドスケープ・デザイン—図書館利用者を対象とした音環境調査の報告— 131-146

岸田 和明 計量書誌学的法則に関するモデルと理論 147-166

國分 信 わが国諸大学における「情報」教育(I)  
—「情報」関係学部・学科の名称の整理と分析— 167-185

三輪 玲子・中敷領孝能 ドイツ語教育におけるマルチメディア教材利用 187-207

研究ノート

西岡 久雄 持続可能な環境と観光開発 209-218

資料

戸田 光昭 図書館学教育のための演習問題作成の試み(4)—「情報サービス論」の演習問題— 219-221

林 瑞枝 フランスにおける帰化の推移—18世紀末から20世紀末まで— 223-227

第4巻第1号 (1997年6月)

論文

岩熊 史朗 パーソナリティの主観的構成 1-14

大橋 泰二 ベトナム観光開発の課題と展望 15-21

金 容媛 図書館情報政策における諮問機関の役割に関する研究 23-33

國分 信	わが国諸大学における「情報」教育(II)—短大・高専「情報」関係学科の名称の整理と分析—	35-56
祁 放	中国二十年代女性作家の困惑	57-73
塚本美恵子	心情理解をうながす異文化理解教育の実践—映画を利用した授業—	75-87
寺村由比子	投稿規程の比較分析による学会誌の分野別特徴(I)	89-100
西岡 久雄	長期滞在旅行と立地的予算包路線—無差別曲線・予算線・包路線の適用—	101-106
<b>資料</b>		
戸田 光昭	生涯学習時代の図書館における児童サービス—その歴史と現状と展望—	107-115
	1996年度研究業績一覧	117-128

## 第4巻第2号 (1997年12月)

## 論文

寺村由比子	投稿規程の比較分析による学会誌の分野別特徴(II)	129-146
広瀬 順皓・林 初梅	台湾総督府における文書管理制度の成立と展開—『台湾総督府公文類纂』を例として—	147-173
三輪 玲子	上演批評に見るホルヴァート民衆劇の受容(1)—『カージミルとカロリーネ』の初演分析—	175-183
杜 正文	情報検索のためのサーチエンジン活用法	185-192

## 資料

戸田 光昭	生涯学習時代における専門図書館の役割	193-198
-------	--------------------	---------

## 書評

國分 信	ヘイウッド, トレボー著 岡澤和世訳『インフォ・リッチ：インフォ・プアー情報社会のグローバリゼーション—』	199-206
------	---	---------

## 第5巻第1号 (1998年6月)

## 論文

岩熊 史朗	“意味”としてのパーソナリティ	1-14
塚本美恵子	異文化体験のインパクト—第2次大戦前後における日系二世の異文化体験とその「語られ方」—	15-50

## 研究ノート

戸田 光昭	情報活用能力を高めるための基盤としての、大学における情報リテラシー教育(その1)—文献情報利用教育の概要と実践事例の紹介—	51-61
西岡 久雄	観光の経済地理学および経済学	61-68
林 瑞枝	フランスにおけるイスラームの地位—マグレブとの関連で—	69-84
	1997年度研究業績一覧	85-99

## 第5巻第2号 (1998年12月)

## 論文

枝川 明敬	文化施設整備課程における文化指標の研究	1-9
加藤 修子	都道府県立図書館の音環境の現状と音環境に対する意識—図書館におけるサウンドス	

	ケープ・デザイン—	11-26
村越 一哲	情報としての記録—定義と考察—	27-36
<b>研究ノート</b>		
戸田 光昭	情報活用能力を高めるための基盤としての、大学における情報リテラシー教育 (その2) —オリエンテーション科目としての「資料検索法」—	37-42
<b>書評</b>		
青木 栄一	田中真人・宇田正・西藤二郎 著：『京都滋賀 鉄道の歴史』	43-47

第6巻第1号 (1999年6月)

**論文**

加藤 修子	音楽・音の文化遺産 (文化情報資源) の構築 (その1) —音楽・音を後世に伝える方法の体系化—	1-13
金 容媛	英国における文化情報資源政策—制度改革および組織改編を中心に—	15-31
塚本美恵子	公立小学校への英語教育導入の問題と課題—国際理解教育実践のために—	33-47

**研究ノート**

戸田 光昭	情報活用能力を高めるための基盤としての、大学における情報リテラシー教育 (その3) —オリエンテーション科目としての「論文執筆法」—	49-58
西岡 久雄	ホスピタリティ, ノーマライゼーション, 宗教多元主義について(I)—特に日本の宗教的・倫理的風土—	59-77
1998年度研究業績一覧		79-87

第6巻第2号 (1999年12月)

**論文**

岩熊 史朗	自己と意味	1-14
枝川 明敬	文化施設 (公立文化会館) の施設状況及びその活動に関する調査研究	15-22
加藤 修子	音楽・音の文化遺産 (文化情報資源) の構築 (その2) —歴史的な音楽・音を再現する方法の体系化: 歴史的な録音からの再現—	23-33
三輪 玲子	ドイツ世界演劇祭の動向—ベルリン開催「テアター・デア・ヴェルト」から—	35-43

**研究ノート**

金 容媛	シンガポールにおける情報資源政策	45-56
戸田 光昭	索引の研究(1)—出版物索引あるいは索引出版物を考える—	57-61
西岡 久雄	ホスピタリティ, ノーマライゼーション, 宗教多元主義について(II)—特に日本社会の支配原理—	63-72

第7巻第1号 (2000年6月)

**論文**

金 容媛	韓国における国家情報化政策の現況	1-14
杉本由利子	電子情報システムに関する情報検索行動研究へのアプローチ—	15-23
三輪 玲子	上演批評に見るホルヴァート民衆劇の受容(2)—『カージミルとカロリーネ』のオース	

	トリア初演—	25-33
<b>研究ノート</b>		
杜 正文	台湾における情報通信インフラと情報政策	35-41
戸田 光昭	索引の研究(2)—出版物索引あるいは索引出版物を考える(その2)—	43-50
西岡 久雄	ホスピタリティ, ノーマライゼーション, 宗教多元主義について(III)—特にカルヴィニ ズムの予定説, 資本主義, マックス・ウエーバー—	51-68
林 瑞枝	フランスにおける外国人参政権問題	69-83
1999年度研究業績一覧		85-94
<b>第7巻第2号(2000年12月)</b>		
<b>論文</b>		
岩熊 史朗	“特性”の心理学的構築	1-14
加藤 修子	音楽・音の文化遺産(文化情報資源)の構築(その3)—歴史的な音楽・音を再現す る方法の体系化:古楽における再現—	15-28
<b>研究ノート</b>		
杜 正文	中国の通信情報インフラと情報政策	29-34
戸田 光昭	索引の研究(3)—出版物索引あるいは索引出版物を考える(その3)—	35-41
西岡 久雄	ホスピタリティ, ノーマライゼーション, 宗教多元主義について(IV)—自己実現の心理 学, 多文化主義, 文明の衝突論—	43-67
<b>第8巻第1号(2001年6月)</b>		
<b>論文</b>		
大橋 泰二	Tourism Research and Education in Japan: Emerging Trends, Challenge and Issues	1-5
金 容媛	図書館情報サービス分野における国際協力	7-23
<b>研究ノート</b>		
戸田 光昭	索引の研究(4)—子どもの本の索引を考える	25-30
<b>書評</b>		
國分 信	Gitler, Robert & Buckland, Michael ed.: Robert Gitler and the Japan Library School	31-47
2000年度研究業績一覧		49-58
<b>第8巻第2号(2001年12月, 西岡久雄教授退職記念号)</b>		
戸田 光昭	謝辞(西岡久雄教授を送る)	1
<b>特別寄稿</b>		
西岡 久雄	ホスピタリティ, ノーマライゼーション, 宗教多元主義について(V)および研究回顧録	3-33
<b>論文</b>		
青木 栄一	鉄道忌避伝説に対する疑問—補論—	35-44
岩熊 史朗	意味の構造	45-58

文化情報学 第10巻第2号 (2003)

岡部 建次・広瀬 順皓	1 webを1データレコードとするインターネット上の古文書webデータベースシステムの作成	59-66
内藤 嘉昭	観光開発の理論的系譜と再検討(1)	67-80
<b>研究ノート</b>		
戸田 光昭	索引の研究(5)—観光情報資源としての旅行ガイドブックと索引(その1)—	81-86
西野 泰司	テレビ初期の番組はなぜ残っていないのか—メディアの成熟と文化—	87-92
西岡 久雄教授	経歴および業績	

第9巻第1号 (2002年6月)

**論文**

加藤 修子	博物館における音の展示と音による環境づくり：文化情報施設のサウンドスケープ・デザインの展開	1-13
内藤 嘉昭	観光開発の理論的系譜と再検討(2)	15-28

**研究ノート**

青木 栄一	3フィート6インチ・ゲージ採用についてのノート	29-39
枝川 明敬	我が国における文化財保護の史的展開—特に、戦前における考察—	41-47
戸田 光昭	索引の研究(6)—観光情報資源としての旅行ガイドブックと索引(その2)—	49-55
2001年度研究業績一覧		57-66

第9巻第2号 (2002年12月, 安澤秀一教授・手塚映男教授退職記念号)

戸田 光昭	謝辞 (安澤秀一教授・手塚映男教授を送る)	1
-------	-----------------------	---

**特別寄稿**

安澤 秀一	「文化情報学」構築への提言再説	3-5
手塚 映男	自然史博物館と科学教育—博物館に魅せられた50年—	7-18

**論文**

岩熊 史朗	同一性について	19-32
-------	---------	-------

SAWAZAKI, Renee A.

	Extensive Reading Programs: Views from the Research, the Teacher and the Students	33-45
塚本美恵子	コミュニティ放送への市民参加—コミュニティFM放送局の現状とエフエム入間の事例から—	47-63

**研究ノート**

桜井 千絵	龍と『指輪』—ワーグナー『指輪』四部作におけるゲルマン民俗考—	65-70
戸村 栄子	デジタル時代の映像アーカイブ—NHKの映像アーカイブを中心として—	71-77
安澤 秀一教授	経歴および研究業績	79-88
手塚 映男教授	経歴および研究業績	89-92

第10巻第1号 (2003年6月, 西野泰司教授追悼号)

戸田 光昭	故西野泰司教授への追悼の辞	1
広瀬 順皓	追悼 西野泰司先生	2-4

西野泰司教授の略歴ならびに研究業績		5-6
<b>論説</b>		
金 容媛	情報政策の枠組みに関する理論的考察	7-27
加藤 修子	博物館における「音の展示」と「音による環境づくり」：全体報告と館種別比較分析 およびレベル別分析	29-54
桜井 千絵	ラルフ・イーザウ『盗まれた記憶の博物館』について	55-60
<b>研究ノート</b>		
戸田 光昭	索引の研究(7)—観光情報資源としての旅行ガイドブックと索引(その3)—	61-70
2002年度研究業績一覧		71-83
<b>第10巻第2号</b> (国分 信教授退職記念および文化情報学部創立10周年記念号)		
戸田 光昭	謝辞(国分 信教授を送る)	1
<b>特別寄稿</b>		
国分 信	青年司書から高齢教授までの遍歴—意欲と努力に運加わって開く扉—	3-7
<b>論説</b>		
岡部 建次・井上 貴司	製造業生産管理手法の他業種への技術移転の研究—鶏孵化場への技術移 転—	9-16
加藤 修子	博物館の「音をテーマとした展示」における展示方法の分析	17-31
塚本美恵子	映像化時代に求められる教育の役割—多様化を目指すメディア教育実践の試み—	33-42
櫻井 千絵	ラルフ・イーザウ『影絵ネット』について	43-49
<b>研究ノート</b>		
広瀬 順皓	Selected Translation of Yamagata Aritomo's (IKENSHO) [意見書Position Papers] Part 1: Yamagata Aritomo's SEIBAN=IKEN [征蕃意見] (Opinion on the Tai- wan Expedition)	51-62
SAWAZAKI, Renee, A.	Introducing the Novel in an Extensive Reading Program	63-70
杜 正文	カリフォルニア大学デービス校での在外研究(I)—在外研究経過報告—	71-74
<b>文化情報学部10周年に当たって</b>		
原田 三朗	文化情報学部の創世記	75-88
戸田 光昭	日本初の文化情報学部—なぜ私はこの学部で働くようになったのか—	89-90
大木昭一郎	文化情報学部における私の10年間	91-94
小林 侖史	インテリジェント・キャンパス事始め	95-100
機関誌委員会	文化情報学部10年間の記録(専任教員一覧・教員別担当授業一覧・専任教員に対する 研究支援)	101-115
機関誌委員会	資料:「文化情報学部設立の趣旨」	116-120
	資料:「文化情報学部は情報を資源として捉えた新しい情報学を学ぶ場です」	121-123
機関誌委員会	『文化情報学』総目次 巻号別・著者別	125-137
国分 信教授	経歴および研究業績	138-140

## 『文化情報学』著者別索引

## 青木栄一

- 〈書評〉田中真人・宇田正・西藤二郎著『京都滋賀 鉄道の歴史』 5-2 43-47  
 鉄道忌避伝説に対する疑問—補遺— 8-2 35-44  
 3フィート6インチ・ゲージ採用についてのノート 9-1 29-39

## 岩熊史朗

- パーソナリティの主観的構成 4-1 1-14  
 “意味”としてのパーソナリティ 5-1 1-14  
 自己と意味 6-2 1-14  
 “特性”の心理学的構築 7-2 1-14  
 意味の構造 8-2 45-58  
 同一性について 9-2 19-32

## 枝川明敬

- 文化施設整備課程における文化指標の研究 5-2 1-9  
 文化施設（公立文化会館）の施設状況及びその活動に関する調査研究 6-2 15-22  
 我が国における文化財保護の史的展開—特に、戦前における考察— 9-1 41-47

## 大木昭一郎

- 文化情報学部における私の10年間〈文化情報学部10周年に当たって〉 10-2 91-94

## 大橋泰二

- Implications for Sustainable Tourism Development—with a Special Reference to Indonesia 3-2 117-123  
 ベトナム観光開発の課題と展望 4-1 15-21  
 Tourism Research and Education in Japan: Emerging Trends, Challenge and Issue 8-1 1-5

## 岡部建次・井上貴司

- 製造業生産管理手法の他業種への技術移転の研究—鶏孵化場への技術移転— 10-2 9-16

## 岡部建次・五島敏芳・広瀬順皓

- 明治政治史料デジタルライブラリシステムの作成と研究 3-2 125-130

## 岡部建次・広瀬順皓

- 個人文書目録データベースの作成—谷干城関係文書— 2 37-43  
 公文別録データベースの作成 3-1 1-6  
 1 webを1データレコードとするインターネット上の古文書webデータベースシステムの作成 8-2 59-66

## 加藤修子

- 図書館のサウンドスケープ・デザイン—公立図書館の音環境調査の報告— 3-1 7-23  
 図書館におけるサウンドスケープ・デザイン—図書館利用者を対象とした音環境調査の報告— 3-2 131-146  
 都道府県立図書館の音環境の現状と音環境に対する意識—図書館におけるサウンドスケープ・デザイ

ン—	5-2	11-26
音楽・音の文化遺産（文化情報資源）の構築（その1）—音楽・音を後世に伝える方法の体系化—	6-1	1-13
音楽・音の文化遺産（文化情報資源）の構築（その2）—歴史的な音楽・音を再現する方法の体系化： 歴史的な録音からの再現—	6-2	23-33
音楽・音の文化遺産（文化情報資源）の構築（その3）—歴史的な音楽・音を再現する方法の体系化： 古楽における再現—	7-2	15-28
博物館における音の展示と音による環境づくり：文化情報施設のサウンドスケープ・デザインの展開	9-1	1-13
博物館における「音の展示」と「音による環境づくり」：全体報告と館種別比較分析およびレベル別 分析	10-1	29-54
博物館の「音をテーマとした展示」における展示方法の分析	10-2	17-31
<b>岸田和明</b>		
計量書誌学的法則に関するモデルと理論	3-2	147-166
<b>金 容媛</b>		
European Union（欧州連合）の情報インフラストラクチャー—情報政策遂行のメカニズムと情報シ ステム—	1	23-38
韓国における図書館情報政策：法的側面を中心として	3-1	25-45
図書館情報政策における諮問機関の役割に関する研究	4-1	23-33
英国における文化情報資源政策—制度改革および組織改変を中心に—	6-1	15-31
シンガポールにおける情報資源政策	6-2	45-56
韓国における国家情報化政策の現況	7-1	1-14
図書館情報サービス分野における国際協力	8-1	7-23
情報政策の枠組みに関する理論的考察	10-1	7-27
<b>國分 信</b>		
わが国諸大学における「情報」教育（Ⅰ）—「情報」関係学部・学科の名称の整理と分析—	3-2	167-185
わが国諸大学における「情報」教育（Ⅱ）—短大・高専「情報」関係学科の名称の整理と分析—	4-1	35-56
〈書評〉ヘイウッド、トレボー著、岡澤和世訳『インフォ・リッチ：インフォ・プア—情報社会のグ ローバリゼーション—	4-2	199-206
〈書評〉R. Gitler & M. Buckland ed.: Robert Gitler and the Japan Library School: An Autobiographi- cal Narrative	8-1	31-47
〈特別寄稿〉青年司書から高齢教授までの遍歴—意欲と努力に運加わって開く扉—	10-2	3-7
<b>小林侑史</b>		
インテリジェント・キャンパス事始め〈文化情報学部10周年に当たって〉	10-2	95-100
<b>祁 放</b>		
中国二十年代女性作家の困惑	4-1	57-73
<b>桜井千絵</b>		
龍と『指輪』—ワーグナー『指輪』四部作におけるゲルマン民俗考—	9-2	65-70



ラルフ・イーザウ『盗まれた記憶の博物館』について	10-1	55-60
ラルフ・イーザウ『影絵ネット』について	10-2	43-49
<b>SAWAZAKI, Reñee A.</b>		
Extensive Reading Programs: Views from the Research, the Teacher and the Students.		
	9-2	33-45
Introducing the Novel in an Extensive Reading Program	10-2	63-70
<b>杉本由利子</b>		
1980年代のフランス図書館ネットワークの展開についての研究ノート	3-1	67-80
電子情報システムに関する情報検索行動研究へのアプローチ	7-1	15-23
<b>高橋豊美</b>		
Aspects of the Theory of Phonological licensing and Elements (1)	1	49-63
Aspects of the Theory of Phonological licensing and Elements (2)	2	9-27
Revised Syllabification Principles for the Longman Pronunciation Dictionary	3-1	57-65
<b>塚本美恵子</b>		
異文化理解教育としての短期留学—異文化理解のプロセスと教育効果	1	81-95
心情理解をうながす異文化理解教育の実践—映画を利用した授業—	4-1	75-87
異文化体験のインパクト—第2次大戦前後における日系二世の異文化体験とその「語られ方」—	5-1	15-50
公立小学校への英語教育導入の問題と課題—国際理解教育実践のために—	6-1	33-47
コミュニティ放送への市民参加—コミュニティFM放送局の現状とエフエム入間の事例から—	9-2	47-63
映像化時代に求められる教育の役割—多様化を目指すメディア教育実践の試み—	10-2	33-42
<b>手塚映男</b>		
〈特別寄稿〉自然史博物館と科学教育—博物館に魅せられて50年—	9-2	7-18
<b>寺村由比子</b>		
擬似紙に関する一考察	2	67-79
投稿規程の比較分析による学会誌の分野別特徴 (I)	4-1	89-100
投稿規程の比較分析による学会誌の分野別特徴 (II)	4-2	129-146
<b>杜 正文</b>		
情報とマルチメディア	3-1	47-56
情報検索のためのサーチエンジン活用法	4-2	185-192
台湾における情報通信インフラと情報政策	7-1	35-41
中国の通信情報インフラと情報政策	7-2	29-34
カリフォルニア大学デービス校での在外研究(1)—在外研究経過報告—	10-2	71-74
<b>戸田光昭</b>		
〈資料〉図書館学教育のための演習問題作成の試み—『逐次刊行物』(JLA図書館選書5)のための設問と解答の例示(1)	1	103-107
〈資料〉図書館学教育のための演習問題作成の試み—『逐次刊行物』(JLA図書館選書5)のための設問と解答の例示(2)	2	81-87
〈資料〉図書館学教育のための演習問題作成の試み(3)—「蔵書構築論」のための演習問題—		

	3-1	91-94
〈資料〉図書館学教育のための演習問題作成の試み(4)―「情報サービス論」の演習問題―		
	3-2	219-221
〈資料〉生涯学習時代の図書館における児童サービス―その歴史と現状と展望―	4-1	107-115
〈資料〉生涯学習時代の専門図書館の役割	4-2	193-198
情報活用能力を高めるための基盤としての大学における情報リテラシー教育(その1)―文献情報利用教育の概要と実践事例の紹介―	5-1	51-60
情報活用能力を高めるための基盤としての大学における情報リテラシー教育(その2)―オリエンテーション科目としての「資料検索法」―	5-2	37-42
情報活用能力を高めるための基盤としての大学における情報リテラシー教育(その3)―オリエンテーション科目としての「論文執筆法」―	6-1	49-58
索引の研究(1)―出版物索引あるいは索引出版物を考える―	6-2	57-61
索引の研究(2)―出版物索引あるいは索引出版物を考える(その2)―	7-1	43-50
索引の研究(3)―出版物索引あるいは索引出版物を考える(その3)―	7-2	35-41
索引の研究(4)―子どもの本の索引を考える―	8-1	25-30
謝辞(西岡久雄教授退職にあたって)	8-2	1
索引の研究(5)―観光情報資源としての旅行ガイドブックと索引(その1)―	8-2	81-86
索引の研究(6)―観光情報資源としての旅行ガイドブックと索引(その2)―	9-1	49-55
謝辞(安澤秀一教授および手塚映男教授)	9-2	1
故西野泰司教授への追悼の辞	10-1	1
索引の研究(7)―観光情報資源としての旅行ガイドブックと索引(その3)―	10-1	61-70
謝辞(国分 信教授)	10-2	1
日本初の文化情報学部―なぜ私はこの学部で働くようになったのか―〈文化情報学部10周年に当たって〉	10-2	89-90
<b>戸村栄子</b>		
デジタル時代の映像アーカイブ―NHKの映像アーカイブを中心として―	9-2	71-77
<b>内藤嘉昭</b>		
観光開発の理論的系譜と再検討(1)	8-2	67-80
観光開発の理論的系譜と再検討(2)	9-1	15-28
<b>西岡久雄</b>		
〈資料〉「日本ホスピタリティ研究会」について	1	97-102
市場空間における独占と競争	2	45-52
バトラーとティスデルの観光地域論	3-1	81-89
持続可能な環境と観光開発	3-2	209-218
長期滞在旅行と立地的予算包路線―無差別曲線・予算線・包路線の適用―	4-1	101-106
観光の経済地理学および経済学	5-1	61-68
ホスピタリティ, ノーマライゼーション, 宗教多元主義について(Ⅰ)―特に日本の宗教的・倫理的風土―	6-1	59-77
ホスピタリティ, ノーマライゼーション, 宗教多元主義について(Ⅱ)―特に日本社会の支配原理―	6-2	63-72

ホスピタリティ, ノーマライゼーション, 宗教多元主義について (Ⅲ) —特にカルヴィニズムの預定説, 資本主義, マックス・ウエーバー—	7-1	51-68
ホスピタリティ, ノーマライゼーション, 宗教多元主義について (Ⅳ) —自己実現の心理学, 多文化主義, 文明の衝突論—	7-2	43-67
〈特別寄稿〉ホスピタリティ, ノーマライゼーション, 宗教多元主義について (Ⅴ) および研究回顧録	8-2	3-33
<b>西野泰司</b>		
テレビ初期の番組はなぜ残っていないのか—メディアの成熟と文化—	8-2	87-92
<b>NEWMAN, Wayne Edward &amp; Kumiko Tsukane</b>		
Cross-cultural Analysis of Complaint Japanese and American	1	65-79
Pronunciation: To Teach or Not to Teach	2	1-8
<b>野村文保</b>		
コンピュータファイルの書誌記述—AACR2を中心にして—	2	53-65
<b>林 瑞枝</b>		
フランスの1993年国籍法改正の適用状況—1994年度の国籍取得者統計—	3-1	95-102
フランスにおける帰化の推移—18世紀末から20世紀末まで—	3-2	223-237
フランスにおけるイスラームの地位—マグレブとの関連で—	5-1	69-82
フランスにおける外国人参政権問題	7-1	69-83
<b>原田三朗</b>		
文化情報学の創世記 〈文化情報学部10周年に当たって〉	10-2	75-88
<b>広瀬順皓</b>		
幕末維新期における錦絵類の基礎的研究—錦絵データベース化の試み—	1	7-21
追悼 西野泰司先生	10-1	2-4
Selected Translation of Yamagata Aritomo's (IKENSHO) [意見書Position Papers]		
Part 1: Yamagata Aritomo's SEIBAN-IKEN [征蕃意見] (Opinion to the Taiwan Expedition)	10-2	51-62
<b>広瀬順皓・林 初梅</b>		
台湾総督府における文書管理制度の成立と展開—『台湾総督府公文類纂』を例として—	4-2	147-173
<b>三輪玲子</b>		
上演批評に見るホルヴァート民衆劇の受容(1)—『カージミルとカロリーネ』の初演分析—	4-2	175-183
ドイツ世界演劇祭の動向—ベルリン開催「テアター・デア・ヴェルト」から—	6-2	35-43
上演批評に見るホルヴァート民衆劇の受容(2)—『カージミルとカロリーネ』のオーストリア初演—	7-1	25-33
<b>三輪玲子・中敷領孝能</b>		
ドイツ語教育におけるマルチメディア教材利用	3-2	187-207
<b>村越一哲</b>		
情報としての記録—定義と考察—	5-2	27-36

**門馬幸夫**

文化におけるイデオロギーとプラクティス	1	39-47
恫喝と救済—「救済」のメタファとその論理構造	2	29-36

**安澤秀一**

巻頭言「文化情報学」構築への提言	1	3-5
〈特別寄稿〉「文化情報学」構築への提言再説	9-2	3-5

**和田英夫**

創刊に寄せて	1	1
--------	---	---

**経歴と業績一覧**

国分 信教授	10-2	138-140
手塚映男教授	9-2	89-92
西岡久雄教授	8-2	93-100
西野泰司教授	10-1	5-6
安澤秀一教授	9-2	79-88

**文化情報学部10年間の記録・資料**

	10-2	101-123
--	------	---------

**『文化情報学』総目次 巻号別・著者別**

	10-2	125-137
--	------	---------

**研究業績一覧**

1994年度	2	89-96
1995年度	3-1	107-115
1996年度	4-1	117-128
1997年度	5-1	85-99
1998年度	6-1	79-87
1999年度	7-1	85-94
2000年度	8-1	49-58
2001年度	9-1	57-66
2002年度	10-1	71-83

**研究会報告概要**

1995年度	3-1	103-105
--------	-----	---------